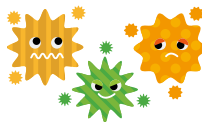


事例から学ぶ /

感染症対策



[執筆者]

堀 成美

ほりなるみ

国立国際医療研究センター 特任研究員

神奈川大学法学部、東京女子医科大学看護短期大学卒業。2009年国立感染症研究所実地疫学専門家コース (FETP) 修了。同年聖路加国際大学助教、2013年より国際医療研究センター感染症対策専門職、2015年より国際診療部医療コーディネーター併任。2018年8月より現職。

第8回 | 新型コロナウイルス騒動でわかった3つのこと

<その1>

2019年12月末、中国が世界保健機関 (WHO) に「原因不明の肺炎の人が増えている」と報告をしました。しかし、原因が「未知のウイルス」であったのはほんの数日で、すぐに新しいタイプのコロナウイルスと判明しました。

昔に比べて、病原体が何かを分析するスピードが上がっていること、皆で協力する体制がつけられていることがわかりました。

<その2>

最初が流行が確認された中国の武漢市の様子をインターネットの動画で見た時、私たちは当初、「とても怖いウイルスなのかもしれない」と思いました。「重症の人がたくさんいる」と感じたからです。

新しい感染症が流行する時は“致死率”は高く出ます。計算の際に、分母は重症な肺炎の人、分子は死亡した人となるためです。病院に来るのは重症の人が多きこともわかっています。しかし時間が経つにつれ、「病院には来ないような軽い症状の人」がたくさんいることがわかりました。そうすると致死率は低くなります。

いつもと同じパターンであることがわかりました。

<その3>

高齢者や持病がある人を除いて、ほとんどの人は重症にならないこ

とがわかった後も、テレビを見ていて不安な日が続きました。不安なのに不安な情報を探してしまい、気持ちもからだも元気を失い「このままだと感染したら重い症状になってしまうかも」とさらに不安になりました。

これではウイルスに負けてしまう！そこで、不安情報を探すのをやめて、できる予防をやってみようと思い始めて気づきました。ウイルスに勝つための対策はいろいろあったのに、十分やれていなかったことに。

<まず私たちがすべきこと>

「咳やくしゃみをする時は、手や周囲が汚染されないように注意する」

「熱や咳の症状がある時は休む、人混みに出かけない」

そして思います。体調不良の人が周囲にいた時、安心して休めるための環境を作れていただろうか、食事や飲み物がなくて困っていただろうか。

また同じような感染症は流行します。その時には今よりもっと強い私たちがいますように。

感染予防のために、できること。

All we have to do to prevent infection is simple.

新型コロナウイルス | COVID-19

Supervision: Kenji Shibuya (King's College London), Yoshiko Hayashi (Dameda Medical Center), Naomichi Hori (National Center for Global Health and Medicine), Eiji Kusumi (Onvitas Clinic) Design / Illustration: Takahito Takuma (Dowlgraphics Inc.)

出典: <https://www.bowlgraphics.net/covid19> (インターネットや印刷での利用は無料。詳細は左記Webサイトで)